

金太郎

むかしむかし、あしがら山あしがらやまの山奥やまおくに、金太郎きんたろうという名前なまえの男の子おとこがいました。金太郎きんたろうの友だちともは、山の動物どうぶつたちです。金太郎きんたろうは毎日動物どうぶつたちとすもうをとって遊あそんで

いました。金太郎きんたろうはとっても力持ちからもちちで、大きな体からだのクマくまでも金太郎きんたろうにはかたいません。金太郎きんたろう一人ひとりと、山の動物どうぶつたちみんなで綱引つなひきをしても、勝かつのはいつも金太郎きんたろうでした。

ある日ひ、クマくまの背中せなかに乗のって山道やまみちを行いくと、谷たにのところところで動物どうぶつたちが橋はしがなくて向むこうに渡わたれないと言いって困こまっていました。

金太郎きんたろうは近くちかくに生はえている大おおきな木きを見みつけると、その大おおきな木きに体当たいあたりをししました。すると大おおきな木きは簡単かんたんに折おれ、金太郎きんたろうがそれを持ち上もげて谷たににかけるかけると、あつと

いう間に一本橋いっぴんばしの出来上できあがりです。動物どうぶつたちは大喜おほよろこびで、金太郎きんたろうのつくつてくれた橋はしを渡わたりました。その後のち、強つよい力ちからとやさしい心こころを持もった金太郎きんたろうは立派りっぱな若者わかものになり、都みやこのえらいお侍お侍さんの家来けらい

になって、悪い者わるいものを次々つとつととやっつけたと



今回のお話は 神奈川県

[金太郎]は源頼光に仕えた実在の武士[坂田金時]の幼名で、神奈川県と静岡県の境にある足柄山で育ったと言われています。南足柄市には金太郎ゆかりの土地がたくさん存在します。

日本の昔ばなしシリーズ

金太郎の湯

森林の香りのお風呂